

使いやすさ重視！もっけの新しい姿

c1240457 大類一成

検討テーマ・問題

今回のテーマは利用者のニーズに応える新しいコンビニ（もっけ）を提案することである。もっけを利用する学生を見かけることはあるが、特定の人が使う印象が強い。学内の人利用したくなるコンビニを考え、提案していきたいと思う。

共感

まず初めに私がもっけに言って実際に体験したこと、観察して思ったことを述べていきたいと思う。体験して思ったことは色々な商品が売っていて小腹を満たすためならいいコンビニである。様々な文房具があることで授業に必要な物が多く取り扱っていると感じた。しかし、商品が置かれていない棚も同時に多いと感じた。もっと有効に活用できる方法があるのではないか。これは、商品が届かない仕入れ待ちが多いことや仕入れている商品に制限をかけていると感じた。また、観察として昼食時に利用する人が多くなる傾向がある。隣が食堂ということもあり、ついでに寄っていく人が多いのだろう。パンやおにぎりがあるので購入する人が多いと感じた。また、曜日ごとに割引商品があることが観察からわかった。大学生は金銭に頭を悩ませる学生が多いと思うのでいい方法だと思った。

課題定義

私が観察・体験から顕在的ニーズとして利用したいときにコンビニが開いていないから、利用できない。自分の欲しい商品が売っていない。一度に多くの商品を買うことができない（手にもてる制限の関係上）が挙げられる。ここから、潜在的ニーズを提示する。まず初めに利用できない理由が開いている時間外ということであるならコンビニの開店時間を伸ばし朝から軽食をとて授業に臨みたいという考え方やまた、学内で勉強し疲れた勉強後に食事をしたいという考え方



が潜在的ニーズになると考える。二つ目に挙げた自分の欲しい商品が売っていないということについてはもっと商品を増やして欲しいという潜在的ニーズが挙げられる。最後に三つ目に挙げた一度に多くの商品を買うことができないということについて、コンビニ内で利用できる入れ物を設置してほしいということが潜在的ニーズとして挙げができると考える。この三つの潜在的ニーズをもとにプロトタイプを提案する。

プロトタイプの提案

私が考えるプロトタイプは「使いやすさ重視！もっけの新しい姿」である。今よりもさらに使いやすく、使ってみたいと思わせるもっけを提案していきたいと思う。まず初めに営業時間を長くすることである。現在のもっけの開店時間は10時から17時である。1限目の前に利用でき且つ5限目の後に利用できるようにするため開店時間を8時から19時に設定したいと思う。開店時間を伸ばすと従業員の負担が大きくなると思うので、アルバイトとして雇用者を募る方法を

考える。授業が終わった後や空きコマを利用することができますれば誰でも簡単に接客としてアルバイトをすることができる。開店時間を延ばすことでたくさん的人に使用してもらうことができると思う。二つ目にもっと商品を増やすために学生が普段買いたいそうなものをピックアップして販売を考えてみる。初めに弁当類だ。現在はおにぎりやパンは販売しているが弁当などがつり食べができる商品がないように感じた。隣が食堂ということを加味して置いていないのかもしれないが食堂は日替わりメニューが存在する。食べたいと思った商品がない場合が多いのではないだろうか。そこで、コンビニで弁当類を販売するとともに固定した商品が置かれることで食堂との違いが生まれるため多くのニーズに応えることができる。他にUSBメモリも追加するとニーズが増えると考える。大学生になりUSBメモリを使う機会が多くなった。あらゆる授業で必要とされているため売られていたら利用者も増えるだろう。大学生が必要としている小物を売ることも一つの手だと考える。三つ目に多くの商品を一度に買うことができないため小さな籠を店内に置きたくさん買いたい人に向けて提供する。籠があればたくさんのものを一度に購入することができ、購入の幅が広がるだろう。



期待される効果

私が考えるコンビニが実現すれば授業前や勉強後に利用する学生が多く見受けられると思う。時間を延長する効果であると考える。また、学生によるアルバイトを募ることで店員の負担を軽減させながら、活気のあるコンビニにあると思う。学生が求めているであろう低価格で購入できる弁当類、USBメモリ、籠の導入を進めることで購入の量が以前と比べて増加すると考える。費用がかかってしまうがその分効果が期待できるだろう。